

## こども六法プロジェクトとは

### たった一人からのスタート

こども六法プロジェクトは元々、慶應義塾大学の学生によるプロジェクトでした。2014年に山崎が一人ではじめ、『こども六法』を制作。その後メンバーを増やし、2015年には「こども六法すごろく」を制作。法教育教材を制作・実践するプロジェクトとして活動しました。



### 助けを得ての再始動

山崎の大学卒業後、さまざまな出版社に『こども六法』の刊行をかけ合うも、実現に至らないまま3年が経過しました。山崎の同級生でお笑いジャーナリストのたかまつななを通じて弘文堂と出会い、また山崎が就職活動で出会った小川凛一が出版に向けたプロデュースを名乗り出たことでプロジェクトが再始動します。

2019年に『こども六法』が弘文堂から刊行されるに際して、「法教育を通じていじめ問題を解決する」という原点に立ち返り、プロジェクトを再定義。「苦境を脱し、より良く生きるための子どもの選択肢を増やし、自ら選択をする力を育てる」ことを目標として、幅広く活動していくこととしました。

### 「子どもの選択肢を増やす」ために

『こども六法』の刊行以降、「こども六法」ではカバーできなかった悩みやこどもたちにアプローチするために、様々な出版社がアイデアやノウハウを持ち寄って書籍を作ってくださいました。本プロジェクトの名を冠して制作した書籍は、下記の理念と伝統を継承しています。

- ・子供だましてはない、本格的な内容
- ・親しみやすいイラスト、興味を喚起する仕掛け
- ・安易な「正解」に飛びつかない、思考体力の養成

### 「子どものために、自分にできることを」の拡大

『こども六法』のあとがきで書いた、「子どもの問題から目を背けず、向き合っていきたい」という決意表明に対し、多くの大人が共感し、自主的な支援に動き出してくださいました。熱い思いを持って『こども六法』を広めて下さった書店や図書館やメディアも、プロジェクトの支援者です。『こども六法』を学校や学童などに寄贈して下さった方もいらっしゃいます。こうして『こども六法』が単純に広まっていくこと自体はもちろん喜ばしいことですが、実はこれだけの方が単純に『こども六法』という「モノを広めたい」と思っているのではなく、心から「子どもを救いたい」と願っているのだという事実こそ、子どもたちに胸を張って伝えたい事実だと感じます。このようなムーブメントそのものが『こども六法プロジェクト』であると考えています。

### こども六法プロジェクトのこれから

こども六法プロジェクトが重視しているのは、「こどものために、一人ひとりができることを」という観点。あくまでも自分にできることに注力しつつも、活動が本プロジェクト以外のあらゆる子どものための活動推進に波及し、『こども六法』に限らない多様な選択肢が子どもにもたらされることが、今後の活動の目標です。

こども六法プロジェクトにお力添え頂いた皆様には、ぜひ本プロジェクト以外に進められる様々な取り組みにもまた積極的な支援をして頂きたいと思います。そうして一人ひとりが自分にできることを重ねていった先に、大人も含めた誰もが安全で快適に過ごすことができる社会が実現すると信じています。

